



桜の文化と生態

フラワーサイエティ 横井邦彦

日本で見られる 野生のサクラ

10野生種から
多様な品種

2015.3.14

朝日新聞記事より

日本でみられる野生のサクラ



カスミザクラ



ヤマザクラ



チョウジザクラ



タカネザクラ



ミヤマザクラ



オオヤマザクラ



カンヒザクラ



マメザクラ



オオシマザクラ



エドヒガン

栽培品種

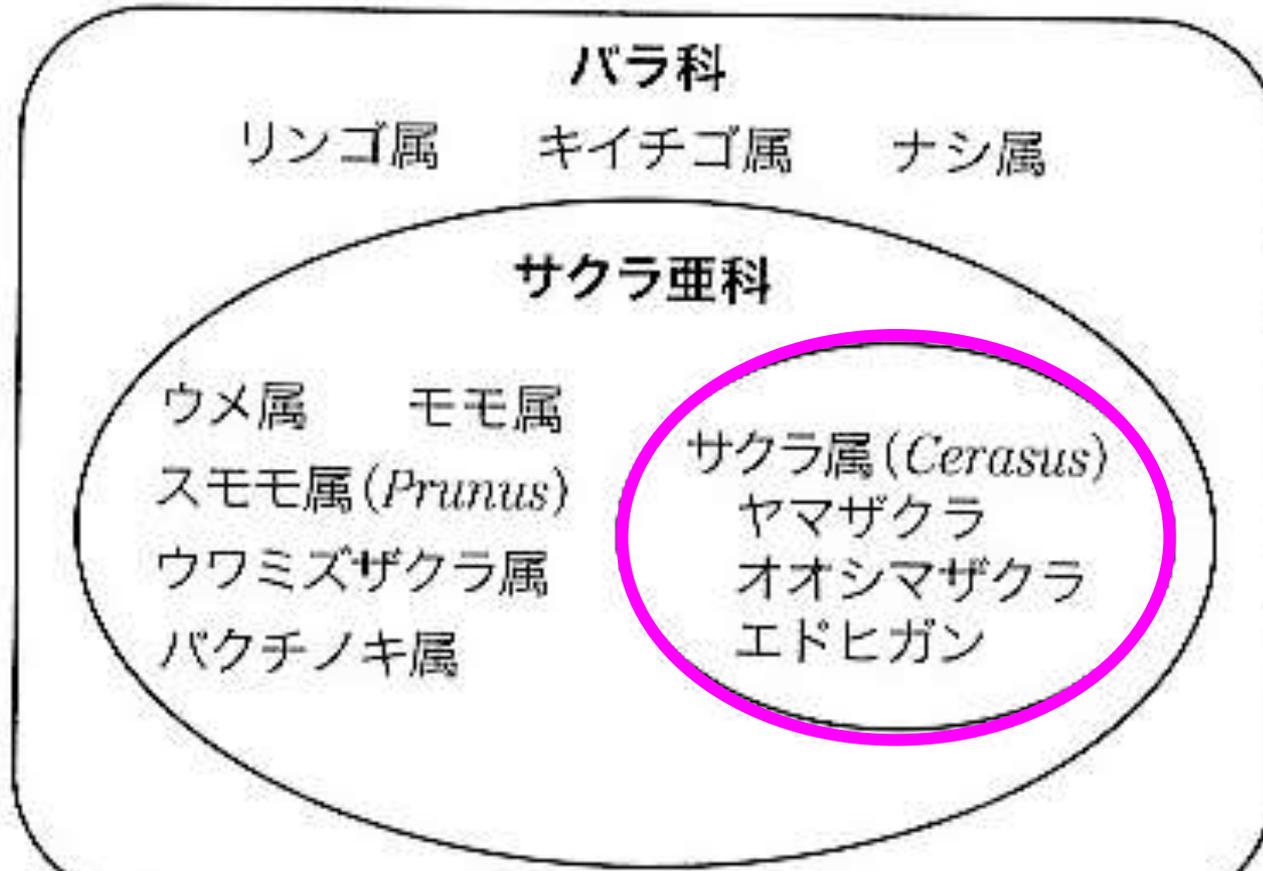


ソメイヨシノ



画像は森林総合研究所提供

スモモもモモもサクラのうち



サクラ類の分類上の位置づけ

5枚の同じ形をした**花弁**と多数の雄しべ、1本の**雌しべ**を持つ

果実の中に一つの大きな**種子(核)**を持つのも特徴

バラやリンゴも5枚花弁だが、**複数本の雌しべ**を持ち、**複数の種子**が入る

表 I-1 桜の種類(群名, 種名とも主なものののみ)

自 生 種	
ヤマザクラ群	ヤマザクラ, オオヤマザクラ, オオシマザクラ, カスミザクラ
エドヒガン群	エドヒガン
マメザクラ群	マメザクラ, タカネザクラ
カンヒザクラ群	カンヒザクラ
園芸品種	「里桜」



図1-1 サクラ自生種の分布

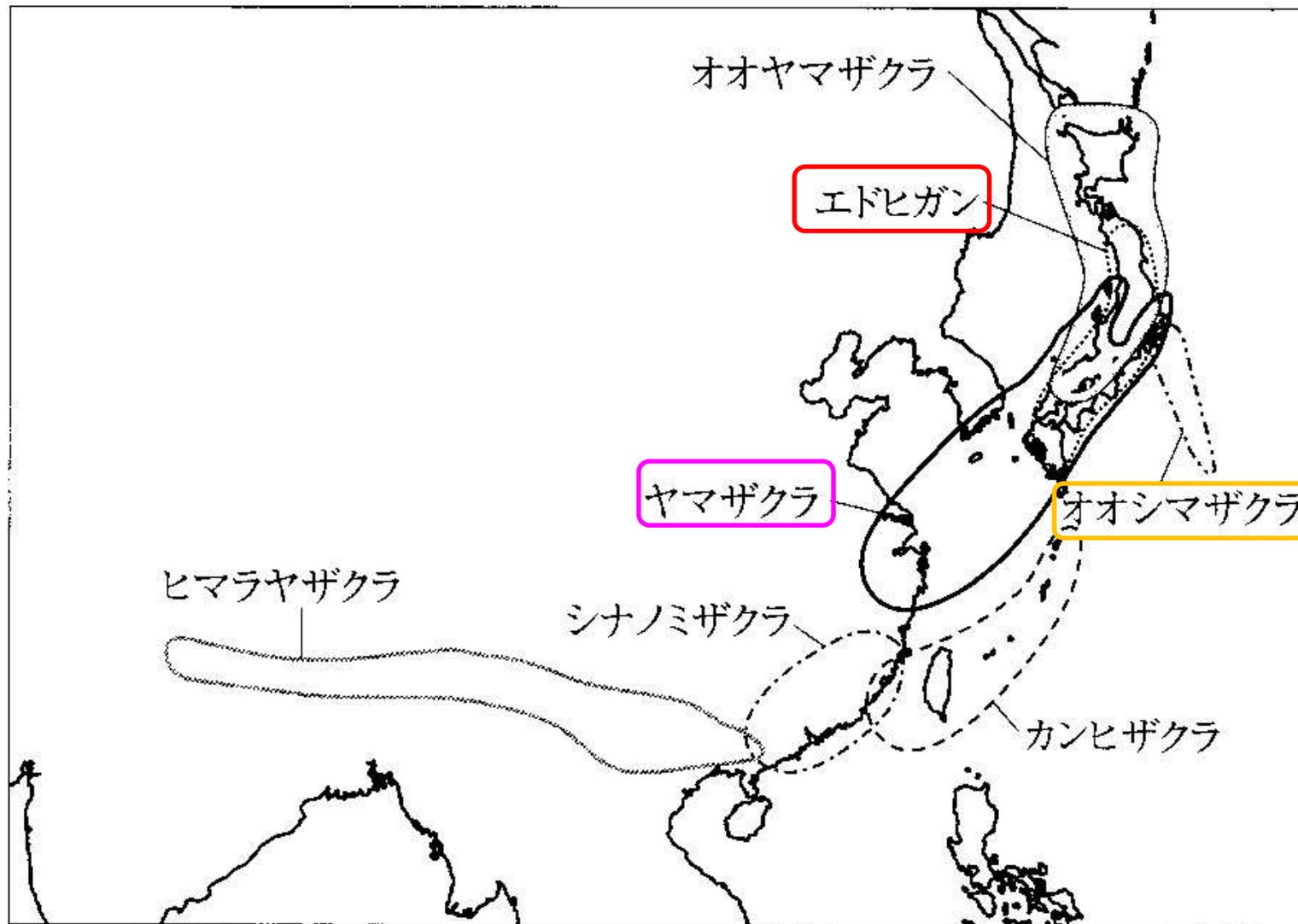


図2-2 アジアのサクラの自生域



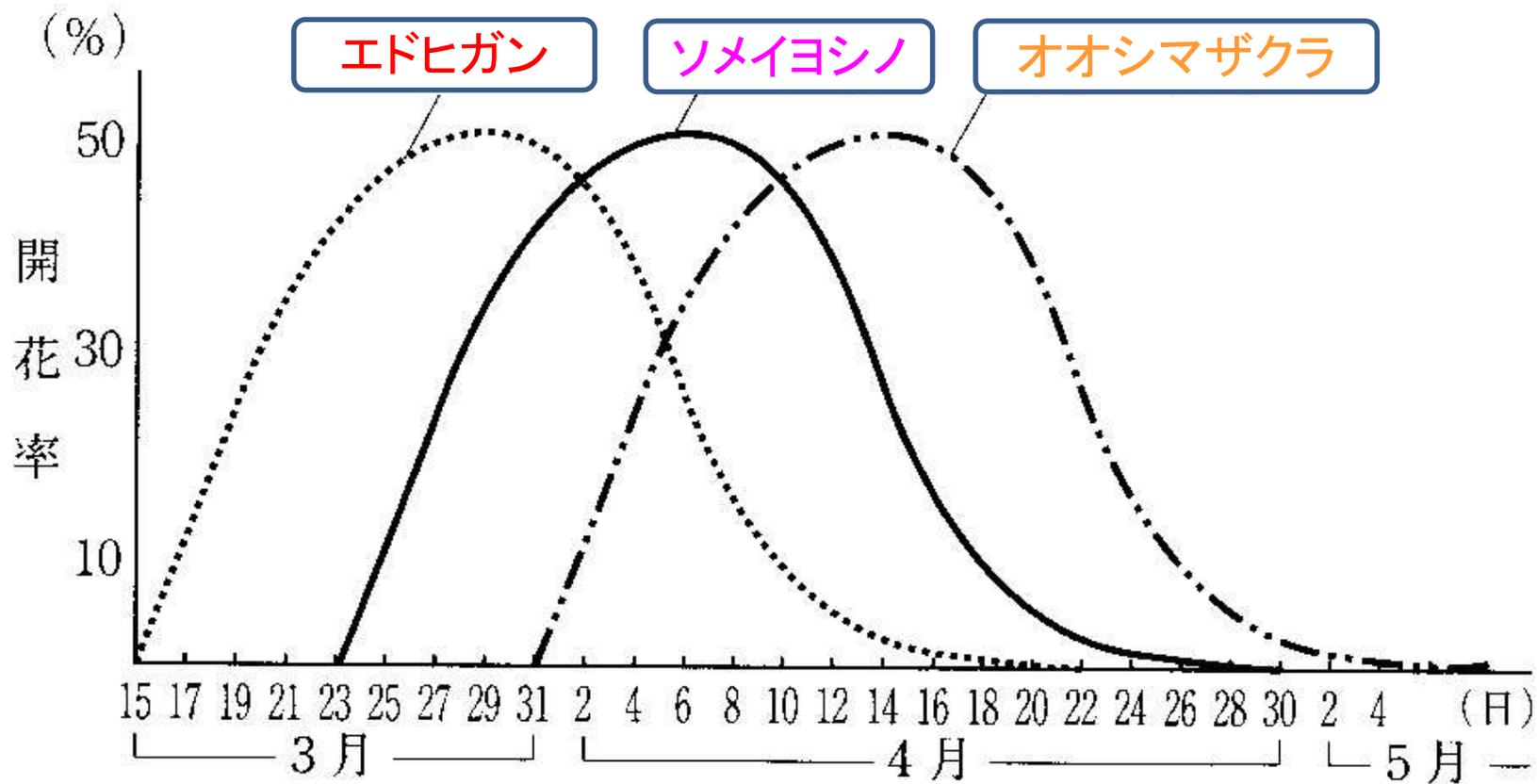
皇居お堀端の桜
ソメイヨシノ



奈良・大宇陀の又兵衛桜
樹齡300年
エドヒガンの枝垂れ

「三日見ぬ間の桜かな」

- ソメイヨシノは花は多いが、短命
- 江戸時代末期以前までは、
山桜、八重桜、枝垂桜をさし、これら
の桜は花が比較的長持ちし
「ソメイヨシノ」のように散らない
- (引用; 栗田勇2001/花を旅する/岩波新書)



出典：岩崎文雄『染井吉野の江戸・染井発生説』

図1-3 ソメイヨシノ、エドヒガン、オオシマザクラの
開花曲線(1989年、小石川植物園)

梅 と 桜

- 梅 は外来文化の象徴
律令貴族の花
- 万葉では 花 = 桜
- 紫宸殿の庭の正面「右近の橘、左近の梅」が
957年桜に代わり、日本人の好みが定着

桜への思い入れ

- 古代民俗信仰 **木花之開耶姫** (このはなさくやひめ)
- **春の女神** 豊穰をもたらす神が桜の木に降りてくる
- **春の喜び新しい命** 穫りを願ってお祝いする
- 自然発生的な花祭り → **農耕と結びつき**
- 神と共に歌い、踊り、舞う “**神遊び**”
- 桜の下で宴する集いの始まり **お花見に**



お花見

文学作品に桜の登場「伊勢物語」

- 主人公の在原業平 と 知人とのやり取り
- 「世の中にたえて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし」
- 「散ればこそいとど桜はめでたけれ 浮世になにか久しかるべき」
- 散ってしまうからこそすばらしい。
- 日本的な季節感に諸行無常という仏教的な無常観が入ってきている

散る桜への想い

- とことんまで咲ききって、ある時期が来たら一瞬にして、一斉に思い切って散っていく
- 生ききって身を捨てるという散り際の良さ、日本人にはこたえられないのでは
- 花吹雪となり散る生き生きとしたエネルギー
- 散ることで次の生命が春にまた姿を現す
- 生命の交代 深い意味のエロティシズムの極致

桜の下で集まる お花見

- 桜の大樹の枝下は聖別された「に・わ」
= 神をまつる場所、
神がそこに宿っている聖域
- 桜の下は、神社の境内のようなものとして、
心も裸になって皆が集い、言魂の生命力が
湧きだす出す空間が出来るという気持ち

桜ぐるい

- 西行法師
「願がわくは花の下にて春死なむ
その如月の望月の頃」(山家集)
- 本居宣長 桜の歌を二百首も残した
「敷島の大和心を人とはば
朝日ににほふ山桜花」
- 良寛さん 辞世の言葉として残した句
「散る桜 残る桜も 散る桜」

サクラの歴史

1. 上古 ; 緑樹崇拝としてのサクラ
2. 奈良時代; 王権の瑞祥と、美しい花の精
3. 平安時代; 桜こそ都の花
4. 鎌倉・室町時代; サトザクラの出現
6. 安土桃山時代; 秀吉 吉野・醍醐の花見
7. 江戸時代; 庶民へ花見の拡がりサクラの名所
元禄文化 桜観の転換
8. 明治時代; ソメイヨシノ 軍国の花、靖国の花

1.上古 緑樹崇拝のサクラ

(引用; 本田正次・松田修1982/花と木の文化・桜/家の光協会)

- 古事記(712)、日本書紀(720)常緑樹
 - 日本書紀の履中天皇 磐余稚桜宮のサクラ
充恭天皇 皇妃 衣通郎姫(ソオシノイラツメ)の
美しさをサクラにたとえて詠った
 - 大和の大王家にとって瑞祥のサクラと
美しい乙女の輝きのサクラ 桜観の成立
- ☆春の女神「木花之開耶姫」

サクラは占いの花

- サクラは春の美しい花として目にとまった
- 自然の中に生きる上代人、草木にも霊をみて、自然によって支配されている(アニミズム思想)
- 自然界に対する畏敬崇拝、樹木を神聖し、花が咲くのも神の象徴、咲く花散る花すべて神の至言、花によって年の豊凶を占った
- 上代農耕民族の本性
- サクラの花をイネの花に見立てる

ヤマザクラ

種まきザクラ、田打ちザクラ

- 暦の無かった時代のサクラの開花
- この花が咲いたら農作業の始まりを教える、季節感の目印になる花
- 上代農耕民族の最も恐れたのは、イネの花の咲くころの二百十日、二百二十日の台風、祓い、禊、占いの神祭り
- 冬の雪が解けて水ぬるむ頃、コブシの花とともに薄紅色の山桜が咲く 粃種を播く



農事暦の花 田打ち桜
コブシの花

サクラは農耕の占いの花

- 農耕民族 稲作の吉兆を占う
- サクラの語源
- **サ** サナエ(早苗)、サオトメ(早乙女)のサ
稲を意味し、穀霊すなわち田の神
- **クラ** 神座 田の扱代
- 農事の開始される直前に咲く花から、穀霊
の宿る座として信じられ信愛の情

サクラのサ は 稲の意味

- さと 里
- さなえ 早苗
- さつき 皐月
- さなえづき 早苗月
- さおとめ 早乙女
- さみだれ 五月雨
- さおり; 田植えを始める日の祝い
- さなぶり = さのぼり
田植えが済んだ祝い
- さのぼる (早する)
田植えが終わる

木花之開耶姫 (コノハナサクヤヒメ)

- 桜の花とも関わりが深い日本古来の女神、富士山の祭神で浅間神社に祀られる火山鎮護の神
- このはな(木の花); 木に咲く花 特に桜の異称
- 天照大神の命を受け、ニギハミコは高天原から、この国を治めるために降り、一人の美女に会い求婚 大山津見命の妹娘
- 大山津見命は喜び、姉妹を送り出す
- 姉(石長姫)は醜かったので送り返される
- 天津神の生命が石のように永遠に変わらず、桜の花のように栄えることを祈る意味を込めていた

咲くや此花は「梅」

<http://www.minabe.net/>

難波津に

咲くやこの花

冬ごもり

今は春へと

咲くやこの花



王に

古今和歌集 飯名序

古代民俗信仰

- 春の女神で豊饒をもたらす神が桜の木に降りてくる。田の神はふだん山に居る。
- 山のサクラが咲くと出かけて行き、酒肴を供えて拝し、咲き具合でその年の豊凶を占った
- 神と共に歌い、踊り、舞う「神遊び」という形で、桜の下で遊ぶ宴、集い → お花見に
- 散る花を嫌い、何時までも咲いてくれと願う
鎮花祭

鎮花祭 はなしずめのまつり

- 春、花が飛散する時、その花片にのって、疫病神が四方に分散し、流行病を起こすと考えられ、これを鎮め、疫病の蔓延を防ぐため、**国家の大祭**として毎年必ず行うよう定められていた祭り
- 人間が生活していくうえで生死に関わる最も原初、根源的な祭りとされる
- 後に**京都今宮神社**の「**やすらいまつり**」の風流踊などのように芸能化していった

花祭り・鎮花祭



京都・今宮神社の
「やすらい祭り」

毎年4月10日に行われる
人びとは社前の満開の
桜の下で
“ヤスラエ、花ヤ”
とはやしなながら歌い踊る

稲の花の象徴である
桜花が散らぬよう念じて
唱えたのであろう
秋の実りを祈願する

2. 奈良時代

- 王権の瑞祥
- 美しい花の精
- 大陸との交流により、観賞花の風習が生まれる
- 野生のサクラを庭に植えることの始まり
- 「わが屋前(やど)の桜」として愛した

3. 平安時代 桜こそ都の花

- 南殿の桜 「左近桜」の始まり
- 紫宸殿の前庭の東西(梅と橘)の梅樹が、桜樹に代る
- 嵯峨天皇の時から観桜の花宴が催され、現代に続く宮中花宴の始まり
- 王朝の瑞祥、美の極みの桜こそ「都の花」
- 平安時代はサクラの時代

右近の橘

左近の桜

平安神宮



春の風物詩

都大路の柳と桜

素性法師の歌

花ざかりに

京をみやりてよめる

「みわたせば
柳桜をこき混ぜて
京ぞ春の
錦なりける」

(古今和歌集 春歌)



京都・鴨川沿い

平安時代(続)

- 1096(永長1) 白河上皇、長櫃にハギ、オミナエシ、ススキ、キクなどを植えた作り花を競う《前裁合》。

器物に花を植えはじめ

- 1130～50 《源氏物語絵巻》庭に ウメ、サクラ、カエデ、シダレヤナギ、タケ、ハギ、ススキ、オミナエシ、フジバカマ、ツタ
- 1160(永暦1) 歌人顕昭、箱根山のシダレサクラ詠む。
箱根にエトヒガンの変種イトザクラ
- 1191(建久2) 僧栄西、禅宗臨済導入、茶種を九州の背振山に植える

源氏物語絵巻(桜あそび) 1130~50

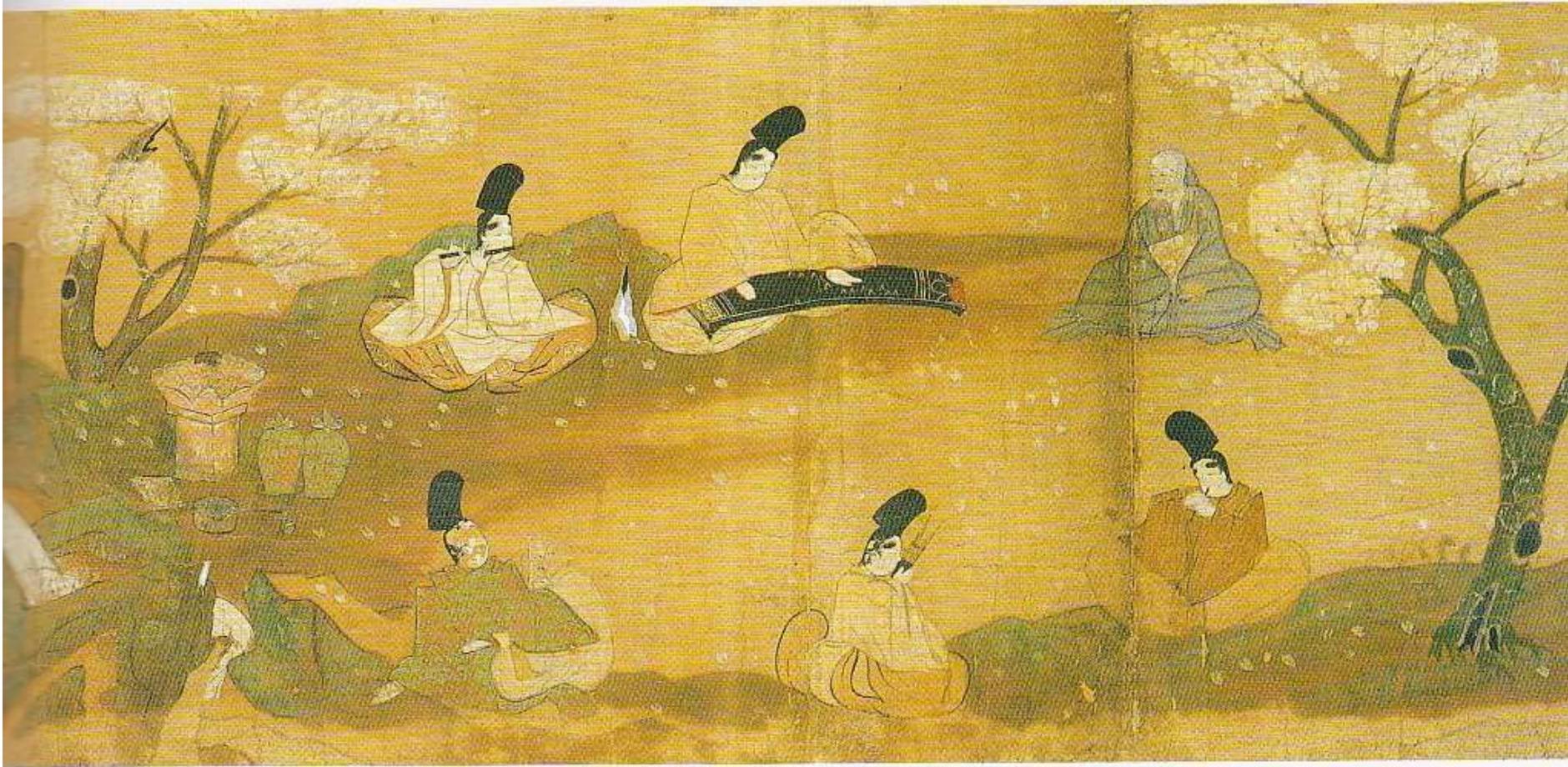
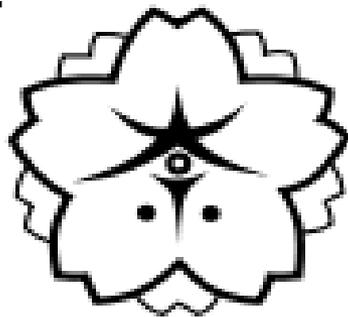


図 II-3-3 源氏物語絵巻(桜あそび) 天理図書館所蔵

Genjimonogatari-emaki (Sakura asobi)

ナラヤエザクラ

- 奈良の八重桜
- *Prunus verecunda* 'Antiqua'
- オクヤマザクラの変種
- 4月下旬から5月上旬開花
- 『詞花集』伊勢大輔の和歌
- 奈良市の市章に





ナラノヤエザクラ

花 桜の名歌



4. 鎌倉・室町時代

- 枝垂桜(エドヒガン)が寺院に現われ、糸桜の名で観賞され多くの歌に詠まれた
- サトザクラの出現; 離宮や貴族の邸宅にサクラが多く植えられ、‘普賢象’‘泰山府君’‘桐ヶ谷’など八重で花が大きい里桜
- 歴史上有名な人物ゆかりの‘西行桜’や‘石戸の樺桜’などが出た
- サトザクラは鎌倉の武士文化が育てた
- 西行法師

鎌倉武士が育てたサトザクラ(里桜)



里桜・ヤエザクラ

サトザクラ (造幣局通り抜け)



小手毬
2012年「今年の花」

普賢象



桜への思い入れ

- 世の中にたえて桜のなかりせば 春の心は
のどけからまし 在原業平
- 願わくは花の下にて春死なん そのきさらぎ
の望月の頃 西行法師
- 敷島の大和心を人とはば 朝日ににほふ
山桜花 本居宣長
- 散る桜 残る桜も 散る桜 良寛

西行像 吉野水分神社

西行: 俗名佐藤義清、
平安末期・鎌倉初期の歌僧
鳥羽上皇に仕えて北面の武士
23歳の時、無常を感じ僧となる





西
行
庵

願わくは花の下にて春死なん
そのきさらぎの望月の頃

西行法師

吉野山の桜

これはこれとはばかり花の吉野山
江戸前期の俳人 安原貞室の句

吉野山の桜は蔵王権現
の神木・聖木

吉野山 ヤマザクラ



兼好法師のサクラ観

- 「前栽の草木まで心のままならず作りなせるは、見る目もくるしく、いとわびし」『徒然草』
 - (1330年頃)と人工的に仕立てた植木を批判し、
 - 花は一重が良いとして、当時増えつつあった八重桜を「異様のもの」として敬遠する。
 - しかし、ウメでは「かさなりたる紅梅の匂ひめでたきも、いとをかし」と八重も「をかし」として
- いる。

花見の風俗

- 室町時代末期～桃山時代初期にかけて制作された『月次風俗図』
- 貴婦人や武家、さまざまな人たちが集いにぎわう様子が描かれている
- 洛中では優美な枝垂桜が好んで植えられた



図11-4-18 月次風俗図部分 東京国立博物館所蔵 Tsukinami-huzokuzu

秀吉 吉野の花見

(文禄3年1594年)

- 家康、利家、政宗ら武将茶人ら5千人連れて大花見
- 3日間雨続きで立腹
- 明日も雨なら山に火をつけ帰る
- 全山僧侶が晴天祈願
- みごとに晴れて盛大花見

「年月の心にかけてし吉野山
花の盛りを今日見つるかな」



一目千本

吉水神社

一目千本 吉野山の桜

秀吉も一目千本で
「絶景じゃ！絶景じゃ！」



図II-4-21 醍醐花見図部分 国立歴史民俗博物館所蔵 Daigo-hanami-zu

秀吉 醍醐の花見大行列 (慶長3年1598年)

5. 江戸時代

- 花見が庶民に広がる 桜の名所出現
- 元禄文化 桜観の転換
- 歌舞伎劇の中において
「花は桜木、人は武士」
- 幕末の革命青年志士は、
好んで散る桜をわが生命として詠う

徳川吉宗 庶民に花見を奨励

- 吉宗が、各地に桜を植えさせ、江戸市民の憩う場所を作り出した背景には環境を整備して、頻発する火事による延焼を防止
- 桜以外に土手に柳や松を植える緑化計画も
- 代表的な場所が、隅田川の桜堤(向島)、飛鳥山(王子)、御殿山(品川)
- 放火など治安の悪かったこの時代、庶民に花見という娯楽を与えることで憂さ晴らしをさせ、人の心を安定させようとした

飛鳥山花見の図 勝川春潮筆



「江戸名所
四季之眺め
御殿山
花見之図」
歌川広重



「四季之内
春
花見帰り
隅田の流し」
溪斎英泉



三福神吉原通り図巻



図II-5-19 三福神吉原通り図巻 鳥文斎栄之筆 日本浮世絵博物館蔵
Sanpukujin-Yoshiwara-kayoi-zukan Chōbunsai Eishi

連歌・俳諧における花の座

- 我々の祖先は自然風物の中で、月と花とを風雅の象徴として特別に賞美してきた。連歌や俳諧でも特に「花の座」「月の座」を設けて、位の高いものになっている。
- 蕉風歌仙では、初折(一枚目)の17句目(花)と名残の折(二枚目)挙句の前(花)を詠む
- 花をもたせる、大事な人、花をもってもらう人
- 「花」の本意は、最も賞翫すべきものの意で、華やかで麗しいものを賞美する心が込められている。したがって「花」という語は、「桜」という特殊な限定を超えてその範疇を拡大する。

蕉風歌仙における「花」

歌仙	初折	表(6句)……	5句目	(月)
		裏(12句)	8句目あたり	(月)
			11句目	(花)
	名残の折	名残の表(12句)	11句目あたり	(月)
		名残の裏(6句)	5句目	(花)

歌仙では二花三月

長句と短句を交互に36句続け、2枚の懐紙に第1紙の表に6句、裏に12句。第2紙の表に12句、裏に6句を書きつけた。蕉風確立後連歌形式の主流に

花の句を詠む 花をもたせる、大事な人、花をもってもらう人

花 桜の名句

- ながむとて花にもいたし首の骨 梅翁(宗因)
- 何と世に桜も咲ず下戸ならば 二万翁(西鶴)
- 花にうき世我酒白くめし黒し 芭蕉
- 花のくもかねはうへのか浅くさか 芭蕉
- 踏れけり花口惜か今一度さけ 宗旦
- 桜咲ころ鳥足二本馬四本 鬼貫
- 咲からにみるからに花の散からに 鬼貫



幕末の革命青年志士、
好んで散る桜をわが
生命として詠う

京都・円山公園のサクラ

染井吉野の誕生

江戸の染井村で生まれたサクラ(吉野)



染井之植木屋 (能本江戸伝) 北條政実画 一八三三(享和三年)
上行屋の伊兵衛といふ、〇〇〇〇を植しおひたりし、花のこゝろ八重枝舞臺す、其の千草万木をかきこへすとなし、
江戸第一の植木屋なり、土々方の御庭木鉢種など、大分た此とこるよりさるること毎日々々なことありませす。

染井之植木屋
花のこゝろ伊兵衛といふ、
〇〇〇〇を植しおひたりし、
花のこゝろ八重枝舞臺す、
其の千草万木をかきこへすとなし、
江戸第一の植木屋なり、
土々方の御庭木鉢種など、
大分た此とこるよりさるること毎日々々なことありませす。

駒込の一部は江戸時代染井と呼ばれ、
栗駒と共に花卉・植木の一大生産地であ
った。
この地で江戸時代以後数多くの優れた
園芸品種が誕生したが、中でも染井吉野
は、当地の地名から名付けられ、世界を
代表する桜の品種となった。
左の絵は、植木屋の第一人者、染井の
伊藤伊兵衛の庭で大勢の人が花を愛でて
いる様子である。

The Land of Somei-Yoshino Cherry Blossoms - Komagome
During the Edo era, a part of today's Komagome town was called "Somei." In those days,
Somei and neighboring Sugamo were famed for their plants and flower businesses.
Numerous superior hybrids have been created in this village, early examples of modern
bio-engineering techniques since Edo era. One of the most successful creators of that
era was a certain species of cherry tree. It was named Somei-Yoshino, after the village.
This is the flower that people throughout the world know as the "Japanese cherry blossom."
The illustration at left depicts a crowd in a garden, admiring cherry blossoms grown
by Ito no, the most renowned plant nurseryman of his day in Somei.

染井吉野櫻發祥の里

ソメイヨシノ発祥の里



漆井之植木屋

花屋の佇ま漆といふ
 けしを植一坪ぐいじ
 花のころいき妙群
 集もそ外千茶
 万本をもとけくと
 とかー江加分一
 の植木屋たを
 よく方り洲産本
 鉢植など大々い
 ととろりゆぐさ
 と毒のくわり





上野乃満花 不忍競馬之図(幾英画, 明治 22 年(1889 年))

所蔵：東京都江戸東京博物館

Image：東京都歴史文化財団イメージアーカイブ

上野不忍池公園の桜

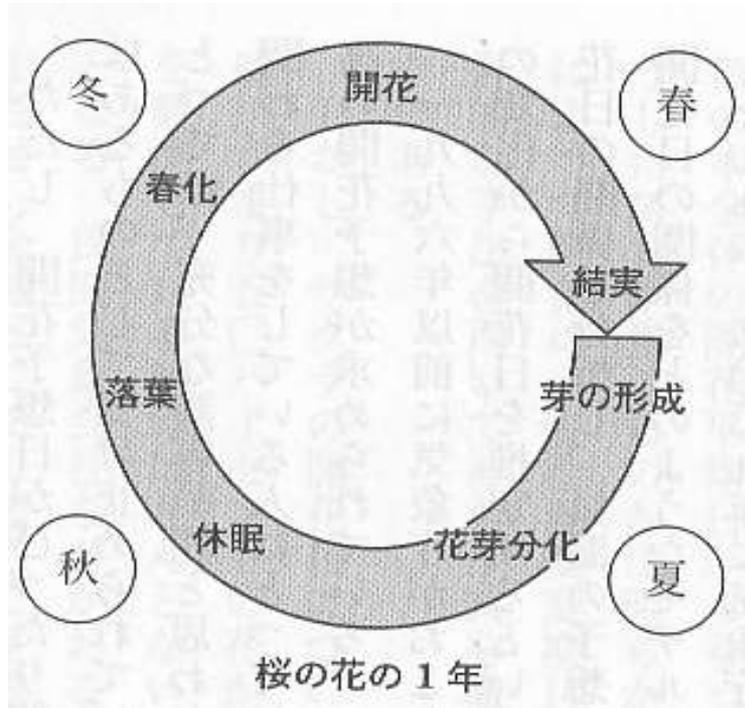
6. 軍国の花、ソメイヨシノ

- 死の花としての桜観を増幅した
- オシマザクラ(大島桜)とエトヒガン(江戸彼岸)との自然交配種
- 明治になって江戸から全国に流行波及
- 花つき多い、花期の長くないサクラ
- 短い花期の夥しい落花は死の無常観へ人を導く
- 明治末期、陸軍唱歌が武人の死を鼓吹し、軍国の靖国の花となった



東京・靖国神社前

サクラが開花する仕組み



サクラの開花予想
2009年までは気象庁が発表
現在は民間気象予報会社

- **花芽**は、咲く前年の夏にはできている
- 夏の終わり頃には、**花芽**の中で花の基になる組織は出来上がる
- 翌年の春まで休眠
- 葉中の**アブジン酸**(植物ホルモン)が、冬芽の成長に必要な**ジベレリン**の作用を抑制し休眠
- 冬期の**低温刺激**によってアブジン酸が減少しジベレリンが増加、**休眠解除**
- **暖かくなり**やがて**開花**

気象庁の開花予想

1996年以前;サクラの花芽の重さを計測し、成長の変化から開花日を推定する手法

1996年以降;気温の効果を温度変換日数に変換し、一定の温度変化日数に達すれば開花すると考える手法

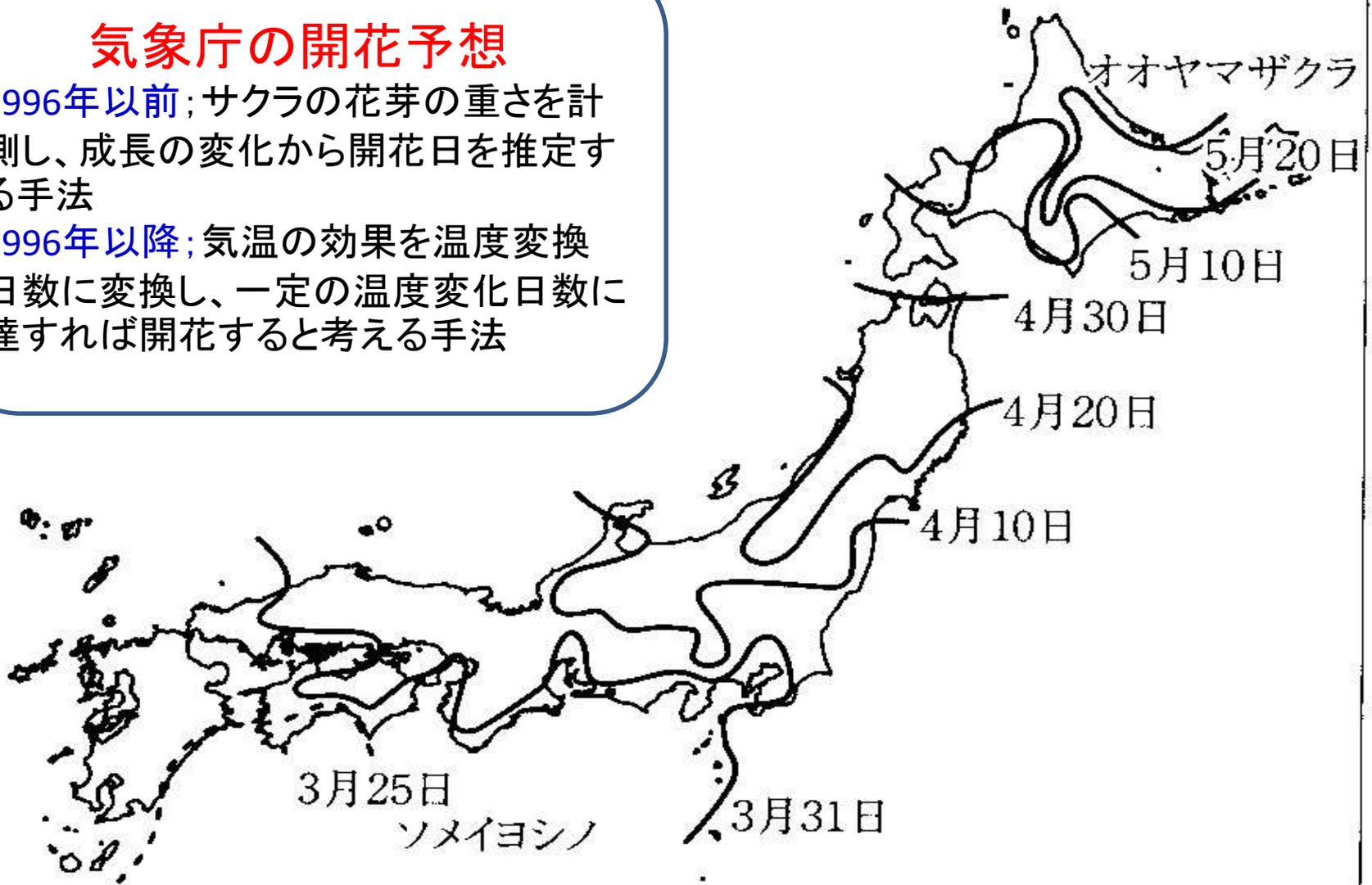
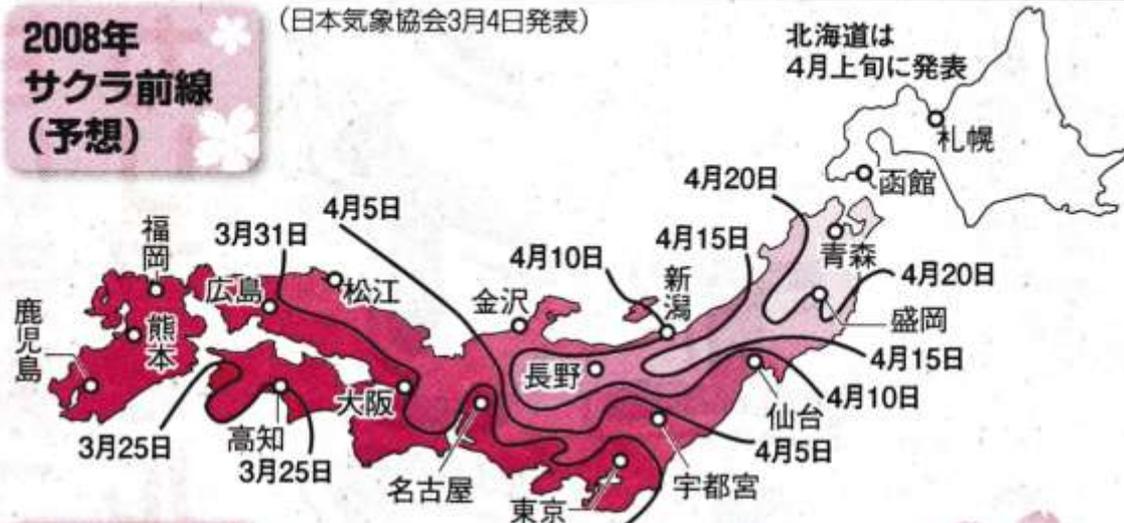


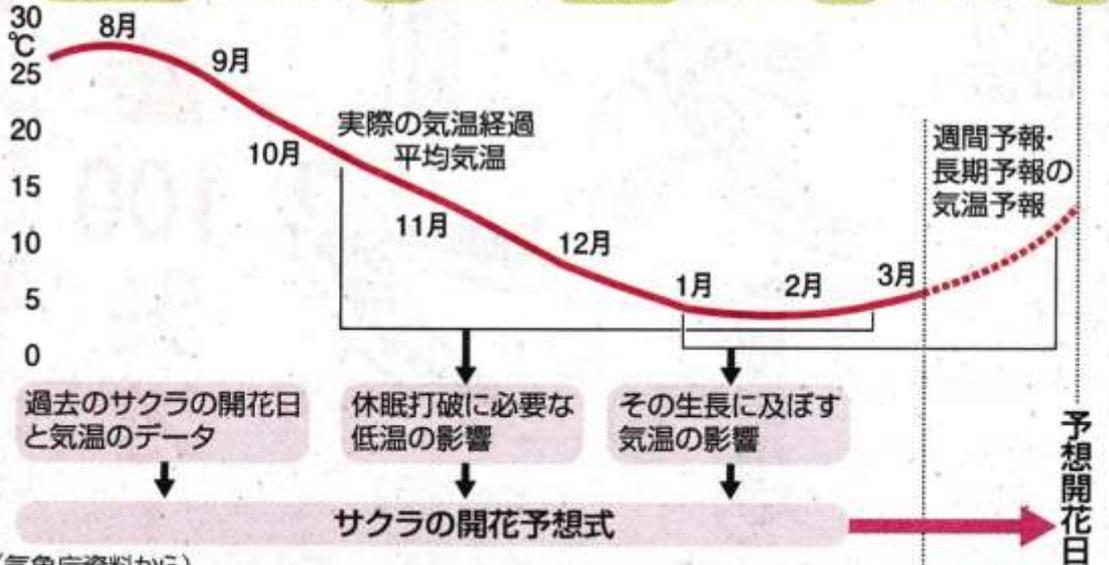
図 桜の開花前線(1961~1990年の平均値、気象庁)

**2008年
サクラ前線
(予想)**

(日本気象協会3月4日発表)



**桜の
開花予想の
しくみ**



(気象庁資料から)

サクラを食べる

・桜餅

- **長命寺**の**さくら餅**
吉宗が享保の頃向島の堤に桜の植樹
その葉で**江戸和菓子**
米粉の餅
- **道明寺**の**さくら餅**
半ねりの糯米(道明寺粉)で餡を包む
- **オオシマザクラ**の葉
- **さくら湯**





オオシマザクラ

桜の版木

- 版木で印刷することを「桜にのぼす」と言う
- 日本では、版木の材料は桜、それも山桜が最も良いとされた
- 桜の木は緻密で墨の含み具合が良く、掘るときは柔らかく、時間が経つにつれて硬くなる
- 「桜木に上し」=出版の意味
- 「梓(し)に上す」「梨棗(りそう)に附す」と同意



サクラ切る馬鹿ウメ切らぬ馬鹿

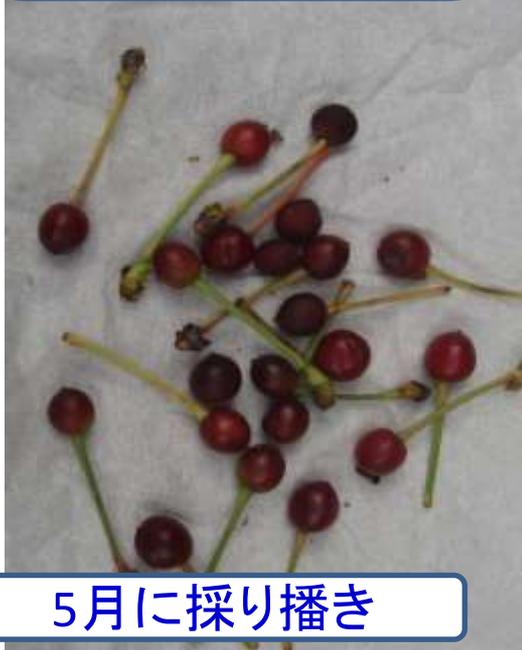
- 強い剪定を嫌うので、重なった枝や混み過ぎた枝を切る程度にし、なるべく自然樹形で育てる
- 根元から出るひこばえや幹から出る枝は、樹勢を弱くする原因となるので、見つけ次第、根元から切り除く
- 前年に伸びた枝から勢いよく伸びる徒長枝は、基部の2～3芽を残して秋に剪定
- 切り口から腐敗菌が入りやすいので、殺菌剤を塗って癒合を促す

サクラの繁殖法 実生

サクラの果実(種子)

多肉果(果皮・中果皮厚く水分や糖類を含み、内腔なく種子と密着。核果で1個の種子。果肉に発芽阻害物質を含む。

成熟の翌春か翌々春に発芽する(D2年型)



5月に採り播き



河津桜

2013,5.13採種

2014.4.3発芽状況

稚苗の伸長成長は速い、浅根性で細根が多い



サクラの挿し木 ソメイヨシノ

2013年4月11日採穂
ペットボトルに底穴
バーミキュライト
底面吸水室内置き



2013年6月6日
発根状況

さし木時期
3月～4月上旬
6月～8月上旬



接ぎ木(芽接ぎ)9月



台木;アオハダザクラ
穂木;普賢象
2011.9.11芽接ぎ
右上;2012.4.10
右下;2012.6.6



サクラ 接ぎ木の適期

- ①切り接ぎ 3月中旬～4月上旬
- ②芽接ぎ 8月～9月

病虫害防除

- **アメリカシロヒトリ**;初夏と秋に発生し、葉を食害
- 発生初期に**殺虫殺菌剤** ベニカXファインスプレー、ベニカグリーンVスプレー、**殺虫剤**ベニカケムシエアゾール、ベニカスプレー、スミソン乳剤、オルトラン液剤散布
- **サクラコブアブラムシ**;新葉の展開期に葉が縮れ、細長い紅色の虫こぶができる
- 4月～6月に**殺虫殺菌剤** ベニカXファインスプレー、**殺虫剤** アクテリック乳剤、スミチオン乳剤を散布
- **てんぐ巣病**;ソメイヨシノに、枝から細い枝が多数出る病害。冬期に病枝の基部から切り除き、焼却。病枝切除後は、**殺菌剤**トップジンMペーストを塗って、その後の発病を予防
- **根頭がん腫病**;若苗で発生、根が異常に肥大する病害。
- 土壌感染するので、発見したら掘り起こして焼却、土壌消毒や客土する

アメリカシロヒトリ

- 初夏と秋に発生し、葉を食害
- 発生初期に殺虫殺菌剤 ベニカXファインスプレー、ベニカグリーンVスプレー、
- 殺虫剤ベニカケムシエアゾール、ベニカスプレー、スミソン乳剤、オルトラン液剤散布



アメリカシロヒトリ



ウメケムシ



モンクロシヤチホコ

サクラコブアブラムシ



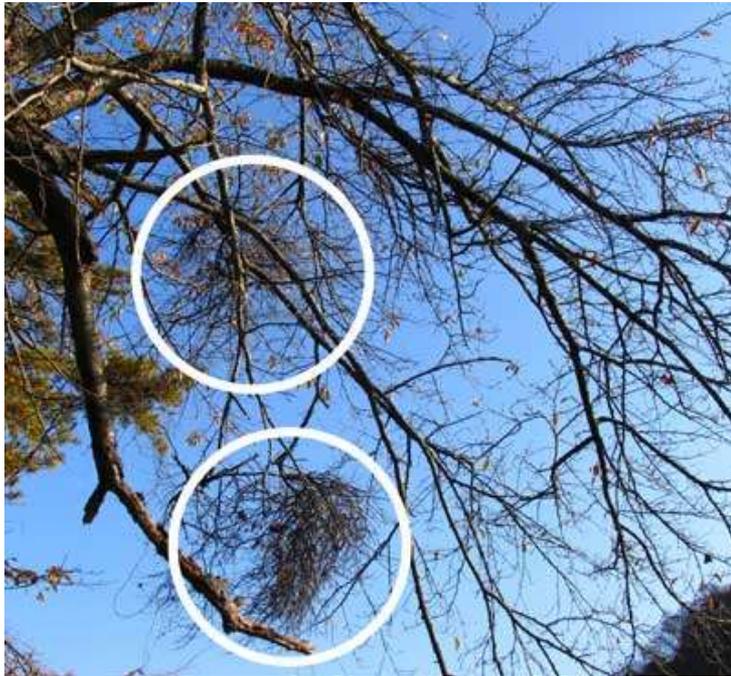
サクラコブアブラムシの被害葉

- 新葉の展開期に葉が縮れ、細長い紅色の虫こぶができる
- 4月～6月に殺虫殺菌剤 ベニカXファインスプレー、殺虫剤 アクテリック乳剤、スミチオン乳剤を散布



サクラヒラタハバチ

数十頭の集団で枝葉上に糸を張り巡らして天幕状の巣を作る。
6～8月に発生。



てんぐ巣病

- ソメイヨシノに、枝から細かい枝が多数出る病害
- ヤマザクラの仲間では見られないといわれる
- タフリナ菌（糸状菌・カビ）によって発症
- 冬期に病枝の基部から切り除き、焼却
- 病枝切除後は、**殺菌剤** トップジンMペーストを塗って、その後の発病を予防



寄生木・ヤドリギの被害も甚大



ウメノキゴケ

(梅の木苔、*Parmotrema tinctorum*)



灰緑色の葉状地衣類で、樹皮や岩に着生する。樹が衰えて来ると発生する

桜 櫻 さくら

- 嬰(エイ)は「貝二つ×女」の会意文字 貝印を並べて、首に巻く貝の首飾りをあわらし、とりまく意。
- 櫻は、花が木をとりまいて咲く木
- さくら;馬肉 桜色をしていることから
- さくら(おとり);露店などで、客を装って買うふりをして、他の客の購買心をおこさせる人
- 本来は江戸時代に芝居小屋で歌舞伎をタダ見させてもらうかわりに、芝居の見せ場で役者に掛声を掛けたりしてその場を盛り上げること、またはそれを行う者のことをサクラといった。



ご清聴ありがとうございました